

学校だより

翔 空

No. 44 平成25年 2月19日(火)
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

「翔空」の由来 〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚なこの学舎から、希望に燃え限らない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

【名言・格言 第7弾】

今回紹介するのは、昔は卒業式の定番となっていた『あおげば尊し』です。じっくり味わってみると実に感動的な歌詞であることがわかります。

一

あおげばとうとし、
わが師の恩。
おしえの庭にも、
はやいくとせ。
おもえばいと疾し、
このとし月。
今こそわかれめ、
いざさらば。

二

たがい互にむつみし、
日ごろの恩。
わかるる後にも、
やよわするな。
身をたて名をあげ、
やよはげめよ。
いまこそわかれめ、
いざさらば。

三

朝ゆうなれにし、
まなびの窓。
ほたるのともし火
つむ白雪。
わするるまぞなき、
ゆくとし月。
今こそわかれめ、
いざさらば。

人生には、いろいろな別があります。その最初の一イベントは、卒業式です。この歌は、特にメロディーが好きです。私もそろそろ卒業式に向けて、式辞を書かねばなりません。卒業生の3年間の活躍を思い出しながら。

昨日は、雨水。春はもうすぐそこまで来ています。卒業式は、3月13日〔水〕。3年生にとっての実質登校日が、16日と迫りました。ますます切ない思いがこみ上げてきますね。

子どもの正しい褒め方 ～褒めるってむずかしい！～

2011年9月ですから、もうだいぶ昔に視聴した「テレビ寺子屋」の一場面から、今回は、「正しい褒め方」と「使わない方がよい言葉」の2点に絞って紹介したいと思います。講師は、教育評論家の尾木直樹（尾木ママ）です。

1) 「正しい褒め方」(褒めて育てる)

具体例：「泥だらけになって帰って来た子に対して」

- まず、「どうしたの？」と理由を聞く。
- 次に、「そりゃあ、大変だったね」と相づちを打つ。
- そして、「この次は、こんなふう汚しちゃダメだよ」と元気づける。(エンパワーメントという)
- (その時の子どもの反応を見て)
「この次は、そうする」なら、
「えらいね。約束してね」と褒める。
(小さい子なら、頭をていねいになでる)

◆ つまり、どんな場面でも褒めるのではなく、こちらから、『褒められる状況』を作っておくことです。このテクニックは、すべての人間関係、特に、コミュニケーションに通じます。

2) 「使わない方がよい言葉」

具体例① 「○○しちゃダメでしょう」

これだと、こわい表情が出てしまう。

→ 「○○した方が、いいわよ」

② 「早く、○○しなさい」

そうではなく、しっかりと子どもの行動を見てあげること。

→ 「どうしたの？」「あっ、そうか○○なんだね」(視線を子どもまで下げて話す。それにより、子どもが安心感と自己肯定感を持つようになる。心を開く)

③ 「大丈夫？平気なの？」

これでは、かえって自信をなくさせる。

→ 「(具体的に) ○○は、準備できたの？」

これら①～③の表現は使用しないように十分に配慮し、むしろ単純に「ありがとう」を一日につき、4・5回は使用するようにすると良いと尾木先生はおっしゃっています。親がきちんと声に出して感謝することで、子どものその後の行動に大きく反映するものなのです。

今日まで学校では、1・2年生は期末テストでした。ちなみに、3年生は中学校最後の実力テストを18日に実施しました。おおよそ10日ほど前から、生徒のみなさんは一生懸命にテストに備えてきました。本当に、良い結果が出ると良いですね。たとえば、テストの点数が悪くとも、そこに行き着くまでの努力の様子子がすばらしかったら、ぜひとも褒めてあげたいものです。その際に、どのような言葉かけをするかが重要なのです。

